

背割堤

背割堤は京都府八幡市にあり、宇治川と木津川が合流する直前に、2つの河川を区切るように設置された全長1,4キロの堤防です。明治時代まで宇治川と木津川は京都市伏見区淀付近で合流していましたが、明治大洪水など度々水害に見舞われたことから、1910年（明治43年）に宇治川、木津川そして桂川が改修されました。そのとき出来た堤防には1970年代まで松が植えられ、参勤交代や赤穂の早かごシーンなど、映画のロケーションなどにも使用されましたが、松の虫害により染井吉野の桜に植え替えられました。全長約1,4キロの堤防に250本の染井吉野が植えられ咲きを競っています。この背割堤の北方向には羽柴秀吉と明智光秀が決戦した古戦場の「天王山」があり、雄大さに於いて一大空間パノラマ絵巻を形成しています。春の桜に心を癒やされ、夏には冷房装置のない冷房に哲学的な頭の中を空っぽにしたり、秋にはおにぎりをばくついたり、そして冬は冬で防寒着に身をかため、1,4キロを散策したりと多種多様と変化自在でどの季節でも心を癒やされることはないでしょう。

{注}

2018年秋に近畿・京都を襲った台風被害はこの背割のさくらも甚大な被害があった模様です。翌年に訪れたときはスケスケ状態で何か拍子抜けした思いがありました。早く元の状態になることを、いやそれ以上になることを祈るばかりです。

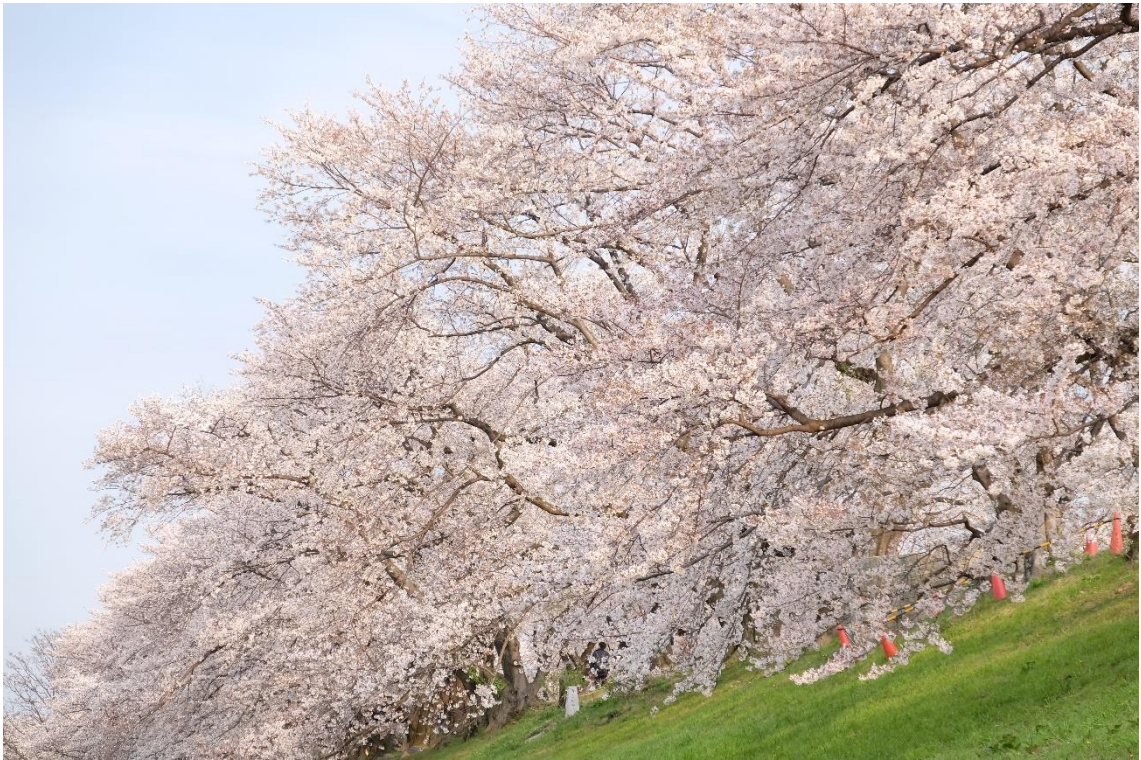
{背割略図}



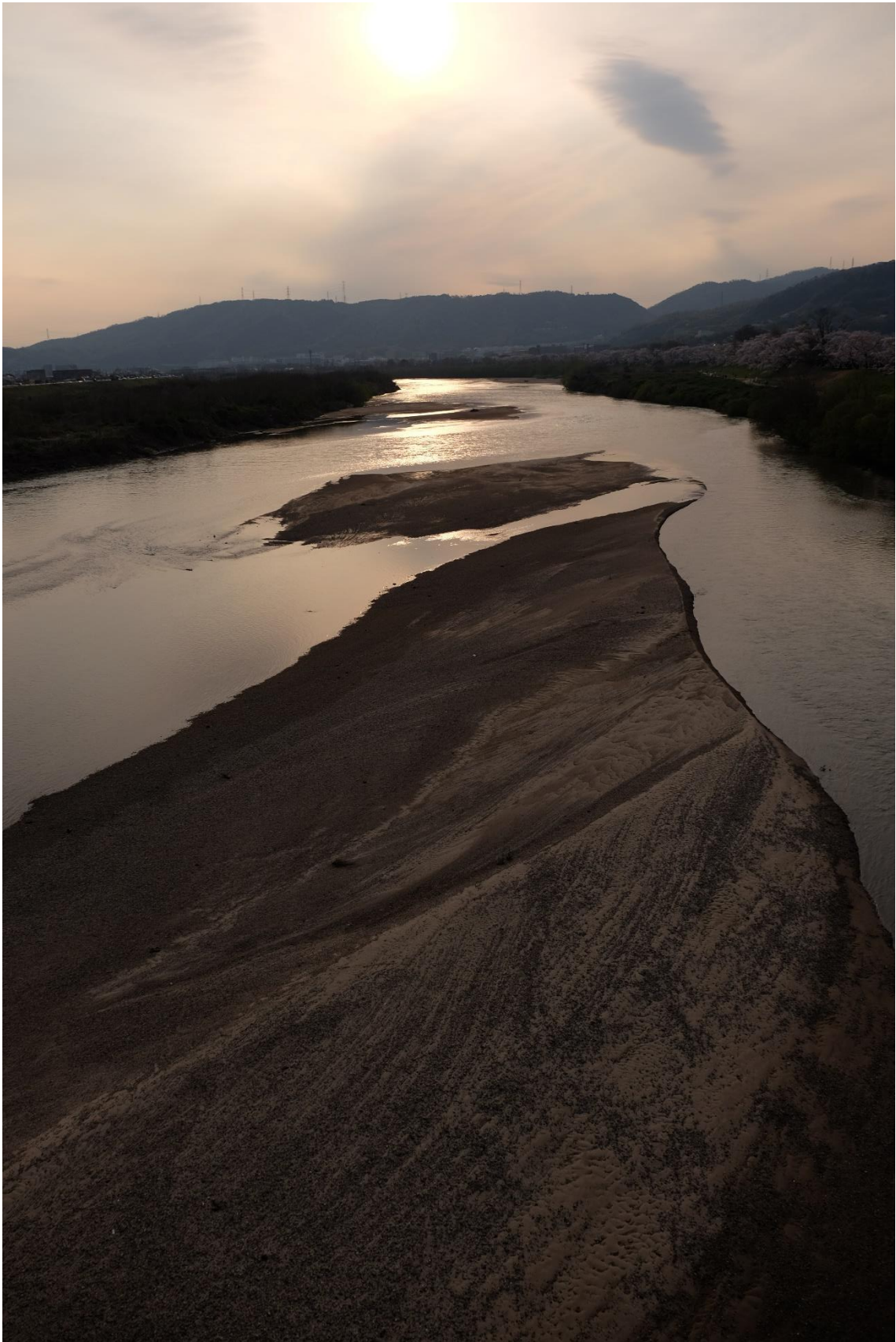
{背割桜}











2018年の台風以前の背割桜風景

